

産地戦略

実施期間 令和6年度

実施主体 綾町自然生態系農業推進会議
都道府県 宮崎県
対象地域 綾町
対象品目 キュウリ



新たに取り入れる環境にやさしい栽培技術の分類

● 化学農薬の使用量の低減	温室効果ガスの削減（水田からのメタンの排出削減）	温室効果ガスの削減（プラスチック被覆肥料対策）
化学肥料の使用量の低減	温室効果ガスの削減（バイオ炭の農地施用）	温室効果ガスの削減（省資源化）
有機農業の取組面積拡大	温室効果ガスの削減（石油由来資材からの転換）	温室効果ガスの削減（その他）

目指す姿

施設キュウリ栽培では、ミナミキイロアザミウマが媒介するメロン黄化えそウイルス（MYSV）対策が重要な課題となっている。現在は化学農薬による防除が主体となっているが、一部の薬剤に対して抵抗性の発達が認められ、十分な防除効果が得られないケースが生じている。

そこで、天敵製剤を活用することで、薬剤抵抗性をもつ個体の防除や散布回数の削減を図り、省力的な防除体系の構築を目指す。

現在の栽培体系

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	備考
主な作業名	■ ■ ■ ■ ■	■ ■ ■ ■ ■	■ ■ ■ ■ ■				△	—	■ ■ ■ ■ ■	■ ■ ■ ■ ■	■ ■ ■ ■ ■	■ ■ ■ ■ ■	△：定植 ■：収穫 —：栽培期間
技術名	○ ○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○ ○					○ ○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○ ○	○：農薬散布

グリーンな栽培体系

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	備考
主な作業名	■ ■ ■ ■ ■	■ ■ ■ ■ ■	■ ■ ■ ■ ■				△	—	■ ■ ■ ■ ■	■ ■ ■ ■ ■	■ ■ ■ ■ ■	■ ■ ■ ■ ■	△：定植 ■：収穫 —：栽培期間
技術名	○ ○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○ ○					○ ○ ○ ○ ○	◎ ◎	○ ○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○ ○	農薬散布：○ ◎：天敵放飼

グリーンな栽培体系等の取組面積の目標

	現状R6	目標R12	備考
（参考）対象品目の作付面積（ha）	27.8	▶ 27.8	
グリーンな栽培体系の取組面積（ha）	1	▶ 2	
環境にやさしい栽培技術の取組面積（ha）	1	▶ 2	
省力化に資する技術の取組面積（ha）	1	▶ 2	

環境にやさしい栽培技術・省力化に資する技術の概要

〈技術の内容・効果〉

分類	産地の慣行	新たに取り入れる技術	期待される効果
環境 省力	化学農薬のみの防除	▶ 天敵資材を活用したIPM	化学農薬の使用回数の削減 薬剤抵抗性の発生リスク軽減
		▶	

〈技術の効果の指標・目指すべき水準〉

分類	指標	現状	目指すべき水準	備考
環境 省力	化学農薬の使用回数（回/月）	2～3	▶ 1	月の農薬散布回数（アザミウマやハダニなどに対する）を減らす。
			▶	
			▶	
			▶	

* 環境にやさしい栽培技術のうち化学農薬・化学肥料の使用量の低減および省力化に資する技術については、原則、検証結果を踏まえて効果の指標・達成すべき水準を設定する（有機農業の取組面積拡大、温室効果ガスの削減に資する技術については、当該欄の記載は任意とする）
* 化学農薬の使用量の低減については、どの剤の使用量を削減するのか、どの剤からどの剤へ切り替えるのかが分かるように記載する

グリーンな栽培体系の普及・定着に向けた取組方針

講習会や技術指導をとおして栽培体系の普及を行い、補助制度等を活用し定着に取り組む。

関係者の役割

関係者名	綾町	宮崎県（宮崎県中部農業改良普及センター）	JAみやざき 綾町地区本部	
役割	全体統括・補助制度推進	マニュアルを活用した講習会及び個別巡回指導	マニュアルを活用した講習会及び個別巡回指導	

その他